

2016 年 2 月

プレスリリース

企画展「猪熊弦一郎展「私の履歴書」 | 前編 絵には勇気がある」

2016 年 4 月 6 日(水) - 6 月 30 日(木) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



アトリエの猪熊弦一郎（1920 年代中頃）

【お問い合わせ先】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

公益財団法人ミモカ美術振興財団

展覧会担当 古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766

E-mail. press@mimoca.org

猪熊弦一郎展「私の履歴書」

前編 絵には勇気がいる

Genichiro Inokuma -My Regume

Part1: It Takes Courage to Paint

[概要]

展覧会名：猪熊弦一郎展「私の履歴書」 | 前編 絵には勇気がいる

会期：2016 年 4 月 6 日(水)－ 6 月 30 日(木) 会期中無休 [86 日間]

時間：10:00-18:00 (入館は 17:30 まで)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室 C

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

観覧料：一般 950 円 (760 円)、大学生 650 円 (520 円)、高校生以下または 18 歳未満・丸亀市在住の 65 歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

- ・同時開催常設展「猪熊弦一郎展 Faces」の観覧料を含む
- ・() 内は前売り及び 20 名以上の団体料金

[開催主旨]

1979 年 1 月、日本経済新聞の人気コラム「私の履歴書」で、猪熊弦一郎(1902-93)が自身の半生を綴りました。四国、香川ののどかな土地で育った、絵を描くことが大好きな子どもが、広い世界に飛び出して、様々な人と出会いながら切磋琢磨し、画家としての自己を確立していく過程が、軽快な語り口で書かれています。本展ではこの自伝をもとに、前編、後編の二期にわけて、エピソードにまつわる作品や資料等によって猪熊の生涯と画業をご紹介します。前編となる今展では、幼少期から中学、美術学校を経て、30 代後半のパリ遊学時代までを展観します。

〔展覧会詳細〕

- ◎ 「私の履歴書」とは、日本経済新聞で60年続く、人気コラムのタイトルです。猪熊弦一郎の「私の履歴書」は、今から37年前、1979年（昭和54）1月1日から31日まで（1月2日は休刊）、30日間連載されました。当時76歳の猪熊がその半生を振り返ったもので、猪熊には他に自伝がなく、その画業を知る上で大変貴重な資料です。
- ◎ 本コラムは、猪熊の画業にまつわる出来事に限らず、ユニークなエピソードも随所に交ぜられており、明るい語り口の、気軽に楽しめる読みものでもあります。
- ◎ 本展では、本コラムの前半部分である猪熊の若い時代、出生から37歳までをご紹介します。故郷の香川県で過ごした幼少期から、東京美術学校（現 東京藝術大学）における学生時代、新制作派協会設立、2年間のパリ遊学まで、故郷をあとにした少年が、画家を目指して切磋琢磨するなかで、その世界が少しずつ広がっていくさまを追います。
- ◎ 展覧会では、それぞれの時代に描かれた作品を、エピソードとともに展示、あわせて関連する資料や写真もご紹介します。画家の人物や、その背景にある出来事と照らし合わせて作品を鑑賞することで、その絵に親しみを感じ、いつもとは違う見方でお楽しみいただくことが出来るでしょう。

〔その他見どころ〕

- ◎ 東京美術学校の同級生で、新制作派協会設立の同志でもある小磯良平（1903-88）が、学生時代に描いたと思われる自画像（当美術館所蔵）も展示します。猪熊の学生時代の自画像と並べてご鑑賞いただけます。
- ◎ パリで知り合い懇意になった藤田嗣治（1886-1968）との交流を、猪熊と藤田、それぞれの日記を参照しながら、丁寧にご紹介します。猪熊が藤田から譲り受けた藤田の作品（当美術館所蔵）も、あわせて展示します。

〔関連書籍のご案内〕

『私の履歴書』猪熊弦一郎 742円（税別）＊当館ミュージアムショップにて販売中
上記の連載を、1冊にまとめた本です。

発行：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団、2003年4月

[関連プログラム]

◎キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の毎日曜日 14:00-（他の関連プログラム開催時を除く）

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込み：不要（1階受付前にお集まりください）

[同時開催展]

◎常設展「猪熊弦一郎展 Faces」

2016年3月30日(水) - 7月3日(日) 会期中無休

展示室 A, B

[次回開催企画展]

◎金氏徹平展（仮称）

2016年7月17日(日) - 11月6日(日) 会期中無休

◎猪熊弦一郎展「私の履歴書」 | 後編

2016年11月19日(土) - 2017年2月12日(日) 休館日：年末休館（12月25-31日）

[作家プロフィール]

猪熊弦一郎 / Genichiro Inokuma (1902-93)

- 1902 12月14日、父八太郎、母マサエの長男として、香川県高松市中新町に生まれる。
- 1907 高松師範学校附属幼稚園へ入園（～9月）、以後教師であった父の転勤にあわせ、多度津幼稚園、丸亀市立東幼稚園と転園する。
- 1909 丸亀城北尋常小学校に入学、以後、多度津尋常小学校、第二坂出尋常小学校と転校を重ね、善通寺第三尋常小学校を卒業する。
- 1915 善通寺尋常高等小学校高等科に1年間通う。
- 1916 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）に入学。
- 1917 母マサエが亡くなる。
- 1921 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。上京し東京美術学校（現 東京藝術大学）を受験するも、遅刻して不合格となり浪人、岡田三郎助主催の本郷洋画研究所に学ぶ。
- 1922 東京美術学校西洋画科に進学。夏休みに帰郷中、肋膜炎にかかり1年間留年する。
- 1923 病が癒え復学のために上京する途中、関東大震災が発生、大阪でそれを知る。しばらくのあいだ大阪に住む従兄の彫刻家、中村武平のもとに留まり、彫刻や鋳造を学ぶ。
- 1925 3学年に進級、藤島武二教室で学ぶ。
- 1926 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1927 東京美術学校を中退。
- 1935 帝展改組に反対し、不出品の盟を結んだ旧帝展第二部無鑑査の有志と第二部会を組織、第1回第二部会展に出品する。
- 1936 帝展の再改組に伴う第二部会の新文展参加に反対し同会を脱会、官展と決別し美術を純粋に追究することを目的に、志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランスに遊学。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1939 パリにおいて藤田嗣治と知り合う。ヨーロッパで戦争の気配が増し、8月末から約1ヶ月、藤田夫妻とともに南仏方面へ疎開する。
- 1940 ヨーロッパの戦況が激しくなり、最後の帰国船、白山丸で帰国する。

↑↑↑ 本展では上記期間をご紹介します ↑↑↑

↓↓↓ 以下、「後編」展（11月19日～2月12日）に続きます ↓↓↓

- 1941 中国文化視察として南京方面に派遣、戦時中はフィリピン、ビルマへ従軍画家として派遣される。
- 1944 神奈川県津久井郡（現 相模原市）に藤田嗣治、荻須高德等、画家仲間と疎開。
- 1946 東京に戻る。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。
- 1955 再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。渡米をきっかけに抽象画を描くようになる。
- 1973 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。

[参考図版]



「丸亀中学時代」 《題名不明》1919 年 ◎公益財団法人ミモカ美術振興財団



「一浪のあと」 《習作（美術学校時代）》1925 年頃 ◎公益財団法人ミモカ美術振興財団



「マチス先生」 《サクランボ》 1939 年 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団



「帰国」 《マドモアゼルM》 1940 年 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団

* 広報用画像は当館ウェブサイトよりご請求ください。 <https://www.mimoca.org/ja/press/>